

研究研修・調査

政務活動費収支報告明細書

実績報告書 No. 1	項目	○研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	2023年10月11日から10月13日まで			
	研究研修名・場所等	第85回全国都市問題会議			
		青森県八戸市公会堂・公会堂文化ホール			
	参加者	3 人			
		(氏名等) 芦原美佳子 丸山幸子 片渕卓三			
経費	研究研修費	194,910 円	調査旅費	円	
実績報告書 No.	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	年 月 日 から 月 日まで			
	研究研修名・場所等				
	参加者	人			
		(氏名等)			
経費	研究研修費	円	調査旅費	円	
実績報告書 No.	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	年 月 日 から 月 日まで			
	研究研修名・場所等				
	参加者	人			
		(氏名等)			
経費	研究研修費	円	調査旅費	円	
実績報告書 No.	項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)			
	期間	年 月 日 から 月 日まで			
	研究研修名・場所等				
	参加者	人			
		(氏名等)			
経費	研究研修費	円	調査旅費	円	
項目別合計 (最終ページに記載)	研究研修費	194,910 円	調査旅費	円	

政務活動費実績報告書

研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 1

項目	研究研修費・調査旅費 (該当する項目を○で囲む)		
期間	2023/10/11(水)～13日(金)		
研究研修名 ・ 場所等	第85回全国都市問題会議		
	青森県八戸市公会堂・公会堂文化ホール		
参加者	3 人 (氏名等) 芦原美佳子 丸山幸子 片瀨卓三		
研究研修・調査の項目			
テーマ「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」			
摘要	金額	備考	
経 費 内 訳	会場使用料	円	
	講師料	円	
	交通費(公共交通機関)	105,780 円	別紙詳細あり
	交通費(公共交通機関)	円	
	交通費(公共交通機関)	円	
	宿泊費	58,800 円	東横INN八戸駅前2泊×3人×9,800円
	会費(出席者負担金)	30,000 円	会議参加費10,000円×3人
	振込手数料	330	JTB振込手数料
		円	
計	194,910 円		

《内容及び今後の活用計画は裏面記載》



【内容及び今後の活用計画について】

10月12日(木) 1日目

基調講演 アートの役割って何だろう？

東京藝術大学長／アーティスト 日比野克彦

【内容】

まず初めに、日比野克彦氏はアートの世界ではかなり有名なアーティストであり、愛知県瀬戸市でも重要な役割を果たしてきた人物である。

アートとは一体何でしょうか？話では、美術・音楽・演劇などの表現形態をイメージするが、アートが人に及ぼす機能、可能性を考え現代社会の中での人に対してのアートの働きを3つの捉え方で分析している。

1つ目の捉え方は、アートとは「生きる力」であり、イメージする力、想像力である。アートは、人が人らしく生きていくためにとても重要な役割を持っている。

2つ目の捉え方は、アートとは「多様性ある社会を築く基盤」だと捉えてみると、現代の社会において、多様性の価値観への眼差しが次世代の大きなテーマとなっており、障がいのあるなしとか、また、個々の異なる背景にもかかわらず、誰もが互いにその人それぞれらしさを排除しない社会を目指すことが重要であることから、アートは多様性の指針である。

3つ目の捉え方は、アートは「社会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なものである」と捉えてみると、人のこころを動かすことはアートの機能、役割、特性ともいえる。人の行動を変容させていくには、1人1人の気持ちの変化が、こころの動きが必要になってくる。だからアートはこころに作用する。

この3つの捉え方から学ぶことは、抽象的ではあるが、大きな力が世界を動かすのではなく、1人1人の小さいけれども、確実にある。少しずつ異なった多様な想いが、時代を変化させていくような基調講演の内容であったし、感銘を受けた。

【今後の活用について】

想像力を備えているアートは人の生きる力になり、1人1人の差異を個性という価値観を持つアートは人をつなぐものになって、心に作用するアートは社会的に課題に取り組んでいく上で大切なものになる。日常の中で自己を見つめたり、人と接したり、社会を変えたいという気持ちになった時に、いつもそこにはアートが必要であることを感じた。とくに基調講演で感じたことは熊本県熊本市の現代美術館でのプロジェクトのビルの中にある美術館は、日常と繋がっている美術館として街の中と繋がっていることから商店街が美術館となっている。このようなプロジェクトから本市にどのように活用していけるのかは、アートが人と人がつながり、地域が繋がることが目的であることから、文化会館等の資源を活かすことは当然であるが、とくに三郷駅周辺整備に今後探る必要性があり、今後の検討課題としていきたい。

主報告 八戸市の文化・スポーツによるまちづくり
青森県八戸市長 熊谷雄一

【内容】

八戸市では、「はちのへ文化のまちづくりプラン～八戸市文化芸術推進基本計画～」や「八戸市スポーツ推進計画」を定めているが、これら計画策定と前後しながら、八戸市が近年取り組んできた、文化・スポーツによるまちづくりの背景について熊谷市長から報告があった。

新しい形の美術館が誕生し、市中心部に賑わいをもたらす。

2021年11月、八戸市の文化芸術拠点となる市美術館がオープンされた。コンセプトは、市民やアーティスト、スタッフが共に学び、創り上げる「アートファーム」である。従来の美術品展示が中心だった美術館とは異なり、人が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しい形の美術館を目指している。

市美術館と共に市中心部にあるのが、八戸ポータルミュージアム「はっち」や八戸まちなか広場「マチニワ」、八戸ブックセンターがある。週末を中心に食やパフォーマンス、音楽、トークなどの多彩なイベントが開催され、にぎわいをもたらしている。市民はもちろん、観光客も気軽に立ち寄れる空間となっている。

スポーツにおいては、2019年、市中心の長根公園内に、国内3カ所目となる国際基準の屋内スピードスケートリンク「YSアリーナ八戸」が誕生した。世界水準の競技環境を整えるため最新鋭の設備を導入し、全日本選手権などの主要大会に活用されている。また、翌年には、八戸駅西口に多目的アリーナ「フラット八戸」が開業。ホッケーリンクとして活用している。スポーツが「する」「みる」「ささえる」で誰もが楽しめるまちづくりを展開していることに感銘を受けた。このことから文化・スポーツで地域社会づくりすることができ、たとえ定住人口が減ったとしても活動を通して地域づくりに主体的に関わる人、地域づくりの当事者が増えれば、まちが豊かになれることを学ぶことができる市長報告内容であった。

【今後の活用について】

成熟社会への価値観の転換を前提としたまちづくりのあり方の一つとして、互いの顔や活動が見える空間づくりにより、コミュニティ感覚を醸成し、そこで誘発される交流からより良い社会をつくるイノベーションが生まれることがこの市長報告から伺うことができた。本市の文化・スポーツについては八戸市と比較することなく本市の良さを市内外に伝えていくことが重要と考えている。

社交、スポーツを含めた文化の享受、リラックスなど、本市に元々備わっている多様な価値を取り戻すことが大事と考える。文化とスポーツは、元来、内に閉じるのではなく、他者と交わり、外へと開いていけるような、まちづくりに貢献できるよう取り組んでいく考えである。

終わりに、三郷駅周辺のまちづくりと平子の森のこれからの活用については、官民連携のもと運営できることについてさらに提案をしていく。

一般報告 まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる

文化事業ディレクター／演出家 吉川由美

【内容】

吉川由美氏からは、まちのリノベーションと「はっち」の誕生についての報告があり、八戸市は中心街再生の起爆剤とすべく「八戸ポータルミュージアム はっち」は2011年2月に開館された。熊谷市長からも報告がありましたが、改めて紹介すると、はっちは、観光、地域資源、ものづくり、食文化、祭礼と芸能、風俗、自然、子育て、市民活動、シアター、スタジオ、アーティスト・イン・レジデンス、コミュニティFMなど、多様な情報のショーケースでありつつ、市民を主体としたさまざまな活動拠点である。八戸の人々の営みを、ビジターが知り、疑似体験できる施設は、当時のまちづくり文化観光部まちづくり文化推進室により企画された。

まちづくり、文化振興、観光分野の市職員と、任用職員のコーディネーターや観光、文化芸術、広報各分野の非常勤ディレクターが運営に当たった。吉川氏は文化芸術事業ディレクターとして2010年春から10年間にわたり、開館準備、開館後のアートプロジェクトをディレクションされてきた。とくに、ここでは感じたことは八戸市職員のみなさんが、アートの中で中心市街地を再生していこうという明確なビジョン持っていることである。それは当時の高校生からの声として「中心街ってどこ？」と逆に聞かれショックを受けたことで、地域の資源を大事に想いながら、新しい魅力を創り出すことがまちの再生することが知りえたと感じる。まちを再生する市民力をブーストするには、市民が自分事として参加できる、分野を横断し壁を揺さぶるようなアートプロジェクトが必要と考えたことから、「はっち」のアートプロジェクトが誕生されたと思う。

アートプロジェクトは、普段は見えにくい地域固有の文化や個々のアイデンティティを再発見する視座を住民たちにもたらしことが、吉川氏の一般報告から感じ取ることができた。

【今後の活用について】

現在の、本市のアートプロジェクトについての取組は八戸市とは比べ物にならないものと感じたが、アートプロジェクトを本格的に立案することとなれば、当然準備期間も必要であり、外部からの人材に頼ることは必然ではあるが、尾張旭市職員のみなさんがアートの中で中心市街地をどのように再生するという明確なビジョンが必要と感じ、議論の場を設けてはどうかと考える。

地域課題が山積する今、文化政策はどうあるべきか市内一丸となって考えなければいけない課題だと感じている。

インターネット社会は世界を均一化し、デジタル上では誰もがグローバルに最先端のアートと出会え、誰もが名立たる表現者になるチャンスに恵まれている時代であることから、文化政策が求められているため、まちのソフトパワーと地域社会の分母を担う人づくりを意識して本市の地域に根ざした文化政策が必要であることを訴えていきたい。

一般報告 標高差1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出

長野県東御市長 花岡利夫

【内容】

花岡市長からは、人口約3万人の小さな市であるが、東御市一帯が、高低差のある地形を活かし古くから名馬の産地として栄え、宿場町として「田中宿」と「海野宿」を中心に発展した。また、高山植物の宝庫で「花高原」として親しまれている。しかしながら時代の変遷とともに観光スタイルが多様化し、来訪者も減少。そこで、消費機会が少なく経済効果が薄くなりがちな通過型観光から脱却し、持続可能な誘客型の基盤づくりを進めていくことが必要になってきた。そのために東御市は地域の資源や特性を活かした「まちづくり」を図るため、文化芸術行政とスポーツ行政を市長部局へ移管をする話があった。

市長部局へ移管することによって、標高差のあるまちの特徴を活かすために、ワイン醸造を行い、長野県初のワイン特区認定を取得し、現在では市内14軒のワイナリーがワインを醸造している。

そしてもう1つ、標高差を活かせるものが「高地トレーニング」であり、この高地トレーニングエリアを中心とした「スポーツが生み出す都市の魅力と発展」に向けた取り組みの紹介があった。

平成29年11月に国内最高地点の全天候型400mトラックが完成し、その後、高地トレーニングができる国内唯一の屋内プール「GMOアスリートパーク湯の丸屋内プール」が完成した。とくに、ここでの建設費では、補助金と寄付金などで賄う予定であったが、補助対象にはならず、寄付金も十分に集まらず、その一部を地方債で賄うこととなるが、地方債の償還においては、企業をはじめ個人など多くの支援で半分程度に抑えることができた。そして基金も積み上がり、苦勞はしたが財源確保にも目途がたったとの報告があった。

終わりに、地域の欠点をそのまま欠点として捉えず、個性として認識し、資源として活用したことで、水泳関係者の中では知らない人はいないといっても過言ではない状況であることの報告がありました。

【今後の活用について】

本市の地形は、北部の丘陵地帯、中央部の沖積平野、南部の洪積台地に分けられる。北部の丘陵地帯には森林公園をはじめとする緑地が多く残っている。また、市内を東西に流れる矢田川がある。名古屋市を中心部からの直線距離は約15kmで、鉄道で名鉄瀬戸線を利用して柴町駅から約20分の距離にあり、非常に利便性に優れた市でもある。

市民にとって緑豊かなまちであり、住みやすさが自慢であるとは感じている。森林公園や平子の森といった資源を今後どういかしていくのか？そして大きな事業計画が発生したところには、市税ではなく国のからの補助金や寄付金等の財源確保が重要と感じたので、担当部局へ伝えていきたい。

一般報告 まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活動

株式会社鹿島アントラーズ FC 取締役副社長 鈴木秀樹

【内容】

鈴木秀樹氏からは、全国に広がるプロスポーツの状況について話があり、1993年に10クラブでスタートしたJリーグ(日本サッカークラブ)の加盟クラブは30年の歳月を経て、60を数えるまでになった。プロ野球やプロバスケットボールのBリーグを含めると全国に100を超えるプロスポーツクラブが存在する。

当然ながら、プロスポーツクラブの存在はシティーセールスにつながる。単に地域ににぎわいをつくるだけではない。人々の心象風景を変えるにとどまらず、まちの姿そのものを変える力がある。地元自治体、企業と連携しながら、まちづくりを推進していくポテンシャルがある報告があり、納得する内容であった。

鹿島アントラーズによる地域の社会課題解決の報告では、2022年、サントリーホールディングスが鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市、笠間市で使用済みペットボトルを回収し、新たなペットボトルに再生する「水平リサイクル」事業をスタートした。持続可能な資源循環型社会の形成を目指したもので、サントリーホールディングスがアントラーズのオフィシャルパートナーである縁で、6市での事業開始となった。

社会課題の解決はプロスポーツクラブだけではできない。しかし、プロスポーツクラブは多種多様な企業、人材とつながっている。クラブがハブとなり、そうした存在を巻き込むことで社会課題の解決が可能となる。

スポーツクラブを有効に使い切るについては、アントラーズはスタジアム来訪者へ定期的にアンケート調査を行っている。アンケートの結果から、道路の渋滞、交通アクセス、宿泊施設、駐車場の問題など地域が抱える課題が浮かび上がる。欠かせない貴重な声であるに違いない。

アントラーズは茨城県からカシマスタジアムの指定管理権を長期にわたり取得し、1年を通じての稼働を目指している。スポーツクリニックやスポーツジムの開設もそのためだが、サッカーの試合以外にも夏場のビアガーデン、スタジアムキャンプ、スタジアム遠足、スタジアム運動会などを催し、コロナ禍においてはワクチン接種会場とした。

アントラーズは単独では対応が難しいまちづくりを、人づくりという観点で進めていく考えである。地域のビジョンを「1人ひとりが輝く地域になる」定め、「地域が新たなチャレンジをする人や環境を増やし続ける」というミッションを掲げた。そのため、まずは全国各地のまちづくりが盛んな地域を視察した。熱量のある地域や人との交流をスタートしている富山市、鶴岡市、三豊市などを参考にしながら、まちづくりに欠かせない地域のキーマンを発掘してきた。

終わりに、自治体に望みたいことは、地域の貴重な資源であるプロスポーツクラブの有効活用であり、活用を進めれば自治体だけではできないことが可能になる。社会課題を解決し、まちづくりを推進することのできる熱量のある報告であり感動をした内容であった。

【今後の活用について】

本市にはプロスポーツクラブはありませんが、愛知県内においては、中日ドラゴンズ(プロ野球)、名古屋グランパス、バスケットボール・バレーボール、ラグビー等、多数のプロスポーツクラブチームがある。こういったプロスポーツクラブはアントラーズと近い同様の取り組みをされていることと思う。

本市にとってこれから、プロスポーツクラブがいつ来るかもしれないが、その時は、今回のアントラーズの先例事例を参考にすることは必要と捉えており、提案をしていきたい。

10月13日(金) 2日目

パネルディスカッション

●一巡した文化芸術を活用した街づくり

～自治体文化行政から魅力的なまちづくり～

東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林真理

【内容】

- ・アート文化の役割として、文化・スポーツをイベントと捉えていると思っていたが、そうではない。
- ・地域の資源の見直しをスポーツと文化で
- ・人を見つけて育てるのが文化スポーツはやり易い。
- ・アントラーズの事例から、まちづくりを共同で企業と成長していく事が大事である話が、小林真理教授からあった。

●八戸の独自性が生み出してきたもの

合同会社 imajimu 代表取締役 今川和佳子

【内容】

- ・複合的な機能を持つ「はっち」の誕生。八戸市の起爆剤として位置づけられた事業であり、現在もその存在感を放ち続けている。
- ・箱ものを作ってどうなるのかと当初は非難されたが、おもしろさがあることから成功に至った。しかし苦勞は多かった。
- ・市民の皆様と共同で行うことが大事であり、知らない世界とのつながりを持つことで、沢山のこぼれ話があり参考になることも大いにある。

●地域活性化におけるスポーツの役割とその変化

拓殖大学商学部教授 松橋崇史

【内容】

- ・地域活性化とトップスポーツクラブについて、地域活動するクラブは入場者数も多い。
- ・変化するスポーツの特徴を捉えること、もしくは、スポーツに新たな価値を付与することを通じて、スポーツを地域活性化に活かしていく視点が重要。

●スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出

～誇り高い沼津を目指して～

静岡県沼津市長 頼重秀一

【内容】

- ・沼津市は、スポーツ・アニメを通じ、地域資源の掘り起こしや沼津の魅力発信に取り組んできた。その結果、多くの方々に沼津に来ていただき、市民との交流の輪が広がった。新たな市民や企業間の交流が生まれ、多くのビジネスチャンスも創出した。
- ・スポーツとアニメで移住が進んでいる。

●文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部

一市民一人1文化・1スポーツの推進

京都府綾部市長 山崎善也

【内容】

・文化芸術が人々に感動や生きる喜びをもたらす人生を豊かにすることから、多くの市民が文化芸術に触れ親しむ機会の充実を図り、「市民一人1文化」の推進により文化のかおるまちづくりを目指している。また、市民の誰もがいつまでもスポーツを楽しむことができるように「市民一人1スポーツ」をスローガンとして掲げ、スポーツの力で人とまちの活性化と都市の交流を進めている。

・合唱のまち綾部、文化がかおるまち綾部、豊かな自然を活かしたスポーツによるまちづくりに全力で取り組み楽しんでいる。

・文化芸術やスポーツの魅力や価値を最大限活用することが、何事も実現できる「鍵」となる。

【今後の活用について】

このパネルディスカッションで感じることは、文化芸術・スポーツを活かしてまちづくりができることを感じた。尾張旭市においても、歴史や先達に思いを寄せ、文化芸術やスポーツの意義を市民に伝えるとともに、ソフト・ハード両面の環境整備に努めることが肝要である。文化芸術やスポーツをまちづくりに活かすことが、ふるさと教育に貢献し、地域アイデンティティの確立が図られることと感じる。

これからは、再度、強調しますが、文化・芸術・スポーツと通してのまちづくりの推進に一層力を入れるとともに、事あることに本市へ訴えていきたいと考える。

公明党尾張旭市議団行程表及び交通費 令和5年10月11日(水)

時刻			移動手段等	金額
11:10		尾張旭駅改札前集合		
11:18	発	尾張旭駅 ↓ ↓	名鉄瀬戸線 (栄町行)	300円×3人 900円
11:35	着	大曾根駅		190円×3人
11:44	発	↓ ↓	JR中央本線 (高蔵寺行)	570円
11:50	着	勝川		
11:52	発	↓ ↓	(徒歩)	
11:54	着	勝川駅前		300円×3人
12:00	発	↓ ↓	あおい交通 名古屋空港直行バス	900円
12:20	着	名古屋空港		
12:22	発	↓ ↓	あおい交通 (徒歩)	
12:25	着	名古屋空港		13,550円×3人
13:10	発	↓ ↓	フジドリームエアラインズ 2365便	40,650円
14:30	着	青森空港		
14:40	発	↓ ↓	(徒歩)	
14:42	着	青森空港		860円×3人
14:45	発	↓ ↓	JRバス東北 (青森駅行)	2,580円
15:20	着	青森駅		
15:22	発	↓ ↓	JRバス東北 (徒歩)	
15:24	着	青森駅		2,320円×3人
15:26	発	↓ ↓	青い森鉄道 (八戸行)	6,960円
16:57	着	八戸駅		
17:00	発	↓ ↓	(徒歩)	
17:05	着	東横INN八戸駅前		
			運賃合計	52,560円

宿泊先	東横INN八戸駅前	〒039-1102 青森県八戸市一番町1-3-17 TEL 0178-27-1045
-----	-----------	---

※全国都市問題会議開始時間に当日移動では間に合わないため、前日の10月11日に移動します。
また、新幹線より飛行機を利用の方が運賃が低額なため、飛行機を利用します。

公明党尾張旭市議団行程表 令和5年10月12日(木)

時刻			移動手段等	金額
8:00	発	東横INN八戸駅前 ↓ ↓	(徒歩)	
8:05 8:10	着 発	八戸駅西口 ↓ ↓	大会専用送迎バス	
8:30	着	八戸公会堂 ↓ ↓	全国都市問題会議 9:30~16:30	
16:50	発	八戸公会堂 ↓	大会専用送迎バス	
17:10 17:15	着 発	八戸駅西口 ↓ ↓	(徒歩)	
17:20	着	東横INN八戸駅前		
			運賃合計	0円

宿泊先	東横INN八戸駅前	〒039-1102 青森県八戸市一番町1-3-17 TEL 0178-27-1045
-----	-----------	---

公明党尾張旭市議団行程表 令和5年10月13日(金)

時刻			移動手段等	金額
8:00	発	東横INN八戸駅前 ↓	(徒歩)	
8:05	着	八戸駅西口		
8:10	発	↓ ↓	大会専用送迎バス	
8:30	着	八戸公会堂 ↓ ↓	全国都市問題会議 9:30~11:50	
12:30	発	八戸公会堂 ↓ ↓	大会専用送迎バス	
12:50	着	八戸駅	(昼食)	2,320円×3人
14:43	発	↓ ↓	青い森鉄道 (青森行)	6,960円
16:20	着	青森駅		
16:22	発	↓	(徒歩)	
16:24	着	青森駅		
16:55	発	↓ ↓	JRバス東北 (青森空港行)	860円×3人 2,580円
17:30	着	青森空港		
17:32	発	↓	(徒歩)	
17:34	着	青森空港		
19:35	発	↓ ↓	フジドリームエアラインズ 368便	13,550円×3人 40,650円
21:00	着	名古屋空港		
21:10	発	↓ ↓	(徒歩)	
21:13	着	名古屋空港		
21:25	発	(高速・連絡バス) ↓	あおい交通 (名古屋駅行)	600円×3人 1,800円
21:50	着	栄		
21:52	発	↓	(徒歩)	
21:55	着	栄町		
22:06	発	↓ ↓	名鉄瀬戸線 尾張瀬戸行	410円×3人 1,230円
22:32	着	尾張旭駅		
			運賃合計	53,220円

※帰路の名古屋空港発 高速・連絡バスを利用する際、勝川経由では出発時刻が21:50で待ち時間が長く、尾張旭駅到着が23時を過ぎるため、栄経由を選択。

領収書/Receipt



戸原 美佳子 様

27,100 円 (税込) (クレジット支払い)



上記の金額正に領収致しました。

基本運賃: 24,500円 ※2023年10月24日搭乗分までは基本運賃内に旅客施設使用料を含みます
燃油特別付加運賃: 2,600円 旅客施設使用料: 0円
手数料: 0円

※ 上記の金額には支払い時の税率が適用されています。
(2023年10月13日)

株式会社フジドリームエアラインズ

お問合せ先 0570-55-0489

2023/10/13 18:39:9
0015-0001-X53349-2/3-2/3

領収書/Receipt



丸山 幸子 様

27,100 円 (税込) (クレジット支払い)



上記の金額正に領収致しました。

基本運賃: 24,500円 ※2023年10月24日搭乗分までは基本運賃内に旅客施設使用料を含みます
燃油特別付加運賃: 2,600円 旅客施設使用料: 0円
手数料: 0円

※ 上記の金額には支払い時の税率が適用されています。
(2023年10月13日)

株式会社フジドリームエアラインズ

お問合せ先 0570-55-0489

2023/10/13 18:39:6
0015-0001-X53349-1/3-1/3

領収書/Receipt



片岡) 幸三 様

27,100 円 (税込) (クレジット支払い)



上記の金額正に領収致しました。

基本運賃: 24,500円 ※2023年10月24日搭乗分までは基本運賃内に旅客施設使用料を含みます
燃油特別付加運賃: 2,600円 旅客施設使用料: 0円
手数料: 0円

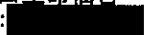
※ 上記の金額には支払い時の税率が適用されています。
(2023年10月13日)

株式会社フジドリームエアラインズ

お問合せ先 0570-55-0489

2023/10/13 18:39:12
0015-0001-X53349-3/3-3/3

収入印紙

株式会社JTBジェイネット東北
 所長 鎌田 友子
 〒980-8520
 宮城県仙台市青葉区一番町3-7-23
 明治安田生命仙台一番町ビル3階
 担当者: 

領収証番号: 323394317000034001
 登録番号: T8010701012863

領 収 証

公明党尾張旭市議団 様

下記のとおり領収いたしました。

領収額合計 ¥58,800 (税込)

イベント名 第85回全国都市問題会議

イベント会期 2023/10/12 ~ 2023/10/13

請求額合計	(税込)	内消費税/税区分	
	¥58,800	¥5,345	-
(10%対象)	¥58,800	¥5,345	-
(8%対象)	¥0	¥0	※1
(対象外)	¥0	¥0	※2
入金額	¥58,800		
請求残額	¥0		

※1 軽減税率適用

※2 消費税対象外商品

領収証備考

明細は次頁以降をご参照ください。

領 収 明 細

領収証発行日: 2023/10/14

2 / 2

領収額合計

¥58,800

(税込)

【内訳】

イベント名 第85回全国都市問題会議
 イベント会期 2023/10/12 ~ 2023/10/13

申込日	ご利用日・内容	本体単価 (税込)	数量	本体合計 (税込)	税区分 内消費税
2023/09/02	2023/10/11 東横INN八戸駅前／無料朝食付プラン (シングル／食事なし) 芦原 美佳子 様	¥9,800	1	¥9,800	10%
2023/09/02	2023/10/11 東横INN八戸駅前／無料朝食付プラン (シングル／食事なし) 片淵 卓三 様	¥9,800	1	¥9,800	10%
2023/09/02	2023/10/11 東横INN八戸駅前／無料朝食付プラン (シングル／食事なし) 丸山 幸子 様	¥9,800	1	¥9,800	10%
2023/09/02	2023/10/12 東横INN八戸駅前／無料朝食付プラン (シングル／食事なし) 芦原 美佳子 様	¥9,800	1	¥9,800	10%
2023/09/02	2023/10/12 東横INN八戸駅前／無料朝食付プラン (シングル／食事なし) 片淵 卓三 様	¥9,800	1	¥9,800	10%
2023/09/02	2023/10/12 東横INN八戸駅前／無料朝食付プラン (シングル／食事なし) 丸山 幸子 様	¥9,800	1	¥9,800	10%
	① 請求額合計			¥58,800	¥5,345
				(10%対象) ¥58,800	¥5,345
				(8%対象 ※1) ¥0	¥0
				(対象外 ※2) ¥0	¥0
	② 入金額			¥58,800	
	③ 請求残額			¥0	

※1 軽減税率適用

※2 消費税対象外商品

会議参加費 領収書

片岡 卓三 様

金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年10月17日

第85回全国都市問題会議実行
会長 熊谷 雄



芦原美佳子 会議参加費 領収書

芦原美佳子 様

金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年10月12日

第85回全国都市問題会議実行
会長 熊谷雄一

会議参加費 領収書

丸山幸子 様

金 10,000円

但、「第85回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

令和5年10月12日

第85回全国都市問題会議実行
会長 熊谷雄一

ご利用明細

三菱UFJ銀行

※ご利用明細は必ずお持ちください

年月日	取扱店番	お取引内容
050921		お振り込み
受付通番	銀行番号	支店番号
		口座番号
		お取引金額
*****		¥88,800*
*****		*****
お振払い できない場合	残高	***
11.14	振込手数料	¥330*
カ) JTB様 アシハラ ミカコ様		

お振込先・お振取人ご照会人

宿泊費、会議参加費
振込手数料